

1997.7.7 NO.65

三浦

バングラデシュと 手をつなぐ会

私達、「バングラデシュと手をつなぐ会」は、バングラデシュのカラムディ村で、現地の村人による委員会(ジョンダニ・ジョンスタ)と協力して次の活動を行なっています。

教育分野 小学校建設、奨学金制度、職業訓練(タイプ、ミシン)、夜間学級、識字学級など

医療分野 母子保健センターの建設と運営、定期的な現地での診療活動、健康および環境調査、医療従事者の研修と村人の衛生教育など

若さあふれる訪問団

元気で行って来ます!

ことしもカラムディ村へ行く日が近づきました。7月19日出発。8月4日に帰国します。小学生、高校生、大学生、若いドクター、若いナース……そのほかも心の若い人ばかり。村に着いたらたくさんの人たちと心から話し、いっしょに仕事をし、こつたりあそんだり……留守中の日本には、夢みることもキャンペーンに村の子ども2人とつきそいの先生が招待されました。その上うれしいことに、雙葉小学校、福岡教育大附属中学校、西南学院大学などの生徒さんたちが協力して下さいます。

8月24日にはアクロス福岡で報告会をします。行く人も残る人も元気で帰国をおたのしみにも!

(大木松子)



旅費カンパをよろしくおねがいし

旅費カンパをよろしくおねがいし

今年も13人で行ってきます!!

ーバングラデシュ現地訪問団 紹介ー

大木松子

今年にはぎやかに
なりそうです。
シアトルで学んだ
英語を発揮してき
ます。

ラフマン・モクレスル

私は辛い食べ物が
苦手です。また、
涙を流す事がある
かな?心配です。

ニノ坂保喜

今年是非手さんが
いっしょに行って
くれるので心強い
です。

宇治松枝

1年ぶり、2回目
の訪問です。今年
は息子も参加しま
す。

(助産婦)

森昌子

1年ぶり、3回目
の訪問です。

パワー全開で頑張
ります。(看護婦)

高橋かおり

3回目の訪問です。
村人との再会が、
何よりもうれしい
です。(看護婦)



衛藤 達生

ベンガル語を
勉強中ですが
難しいですね。

(大学3)



矢野 陽子

サッカーをしてい
たのでぜひ、やり
たいです。

びっくりするかな?

(高2)



達富 三佳

夏の訪問は初
めてです。
暑さに負けず
頑張ります。

(看護婦)

井手 啓貴

村でできる事
を精一杯やり
ます。体力は
あります。

(医師)

桑野 康一

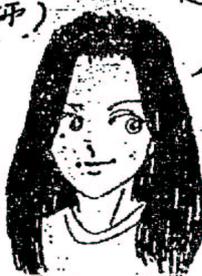
ぜひ村を見たい
です。東京
から参加しま
す。

ニノ坂 悟志

村の人達に早く
会いたいです。
絵をかこうかなあ。



(小学6年生)



宇治 信輔

村の人に聞かれるだろ
うなあ。「どうして女
みたいな髪なんだ」って。

バングラデシュに行くにあたって 医師 井手 啓貴

話が決まるときとは何と早いものなのだろうか。出張先への妻からの電話で、バングラデシュに医療協力をするのがあるけれど行かないか（しかし、このような事を簡単に言う私の妻はたいしたものだ）という言葉に、すぐに「じゃ、行く」と詳しい内容も聞かず決めてしまった。（そんな私も十分変わっている。）

大学入学以来、「死」というのが私のテーマであった。そのためにホスピスの実習でお世話になった亀山栄光病院での経験は、その後の私の診療に大きな影響を与えている。しかし、本当の病気というものを知らないのにホスピスはできないだろうと思い、まずは救急医療ができる医師になるために外科（心臓、肺、乳、肝、消化器、脳）、麻酔、放射線、循環器内科とローテートしてきた。そして、2年前の阪神大震災の時にはボランティア医療活動を3ヶ月間行い、全国のカトリック系の病院でできた医療協力の中心でマネジメントを行ってきた。そのとき、アムダ（AMDA=アジア医師連絡協議会）の人達との交流の中で、今度は海外医療協力だなと思っていたので、今回の話は私にとっては渡りに船といった感じであった。

バングラデシュで私に何ができるか、何をしたらいいのかなど今考えてもどうしようもない（まだ見ていない状態を想像して、どうしたいかなど難しいことである）。わずかな期間の中で何かを与えようとする事は不可能だし、与えようとする気持ち自体間違っているのではないだろうか。あるがままに受け入れ、共に生き、共に考え、彼らの中から自分たちを守る力が出てくるよう見守ってあげることしかできないのではないだろうか。これから続く長い道の第一歩を踏み出す、そんな有意義な訪問でありたいと願う。

できれば、現地で写真を撮る時間がたくさんあればなお嬉しいんだけど・・・初参加です。これからよろしくお願いします。

カラムディ村再び

宇治 松枝

1995年に続いて今年もまた訪問メンバーに加えてもらいました。今年のメンバーは小6から大木さんまでと、最大の年令幅です。私の年令ではバングラデシュへ行けば「ひいばあちゃん」ですが、パイタリティ溢れる大木さんと一緒ですから、私もしっかり役目をはたして参りたいと思います。

今年は、新しい試みとして、職業訓練所で興味のある人に刺繍を教えることになりました。趣味としていただだけの技術しか持ち合わせておりませんが、カラムディ村の若い女性たちと刺繍ができるなんて、幸せなことです。日本ではどんな刺繍があるのか紹介する役目だと考えています。今回は初めてのことなので簡単なものを、と考えています。モデルになる作品や本、刺繍糸など刺繍に必要なものの提供をお願いします。多少にかかわらず提供いただけるものがあればお送り下さい。よろしくお願いいたします。

また、私は助産婦ですから生命の誕生に立ち会いたいと思っております。夜にチャンスがあれば、バングラナースと共に立ち会い、彼女たちがどのように出産を援助しているのかを会員の皆様にレポートしたいと思っています。

思いはたくさんあるのですが、大切なことはチームとして訪問の目的を果たすことです。そのことを最優先にサポートします。そうは言うものの、何が起るかわかりません。報告を楽しみにして下さい。

現地訪問に期待する！！

今年も現地訪問の季節になりました。私が今年の12月にスタディ・ツアーに参加して、はや6ヵ月が過ぎました。その間、運営委員会などに出席して、現地のことも少しずつ分かってきているところです。でも時々、「今ごろ、カラムディ村のみんなは何してるかなあ。日本にいる私たちのことを何か考えたり、思ったり、しゃべったりしてるかなあ。」と考えることがあります。その度に、「もっと知りたいんだ」という自分の気持ちに気付くのです。村人が（おとなも子どもも、男性も女性も）、村のことや私たちの会のことをどのように考えているのか、どんな思いでいるのか、私はとても知りたいです。だから、今回の現地訪問に参加できないのは残念だけれども、帰国後の報告会でどんな話が聞けるかとても楽しみにしています。

私のように「もっと知りたい！」と思っている会員の方も多いのではないのでしょうか。現地へ行くみなさん、この思いにぜひ応えてください。訪問が実りあるものになることを願って。 . . . (台 麻理子)

1997年カラムディ村現地訪問スケジュール

7月19日(土) 12:00 福岡発(シンガポール経由) 23:00 ダッカ着

7月20日(日) ダッカ発→カラムディ村へ(車で約8時間)

7月21日(月)～8月1日(金)まで 現地での活動

医療班 ① 診療活動 ② 巡回検診(看護) ③ 健康調査&環境調査

教育班 村の小・中学校などを訪問する。子供たちと直接話したり、教師と懇談したり、また親たちとの懇談会なども持つ予定。

その他に、現地NGO「シヨンダニ・シヨンスター」と話し合い

8月1日(金) カラムディ村→ダッカへ

8月2日(土) ダッカ見学(病院、NGOなど訪問)

8月3日(日) 午後ダッカ出発 8月4日(月) 朝福岡到着・帰国

旅費カンパをお願いします！

10年委員会を始めました

バングラデシュと手をつなぐ会は1987年の「バングラデシュに小学校をつくる会」の発足以来、今年で10年になります。カラムディ村では小学校ができ、村人による小学校や落ちこぼれの生徒たちのための学校も作られています。また、95年には母子保健センターも完成し、現地の医師や看護婦たちが働いています。

一方日本側も、多くの会員の皆様に支えられて会の活動も福岡の人々の間に定着してきました。

この時期に当たって、これまでの10年間の活動を振り返り、同時にこれからの10年間の展望するための委員会を開いていくことにしました。月に1回程度集まって、いろいろなことをテーマに話し合っていきたいと思っています。もちろんどなたでも参加はご自由です。

第1回目は6月6日に西新の事務所で開かれました。12名が参加して、私達はこれまで何をして来たのか、カラムディ村の様子はどう変わったのか、などをじっくり話し合いました。その中で確認できたことは、

- ① 会のこれまでの歴史をみんなで知って、共有しよう。会として、何をやってきたのか、どういう問題があったのか、等。
- ② カラムディ村でシヨンダニがどんなことをやっているのか、村にとってどんな存在であるのか、もっと知りたい。また、日本の会員とシヨンダニの会員が共通に認識を持って、活動に当たりたい。
- ③ そのためには、現地訪問団がもっと現地の人と話し合っ来て、日本で会員の皆さんにもっと伝えて欲しい。

などといった意見が出されました。特に、このようにみんなで意見を出し合ってみると、それぞれがそれぞれの思いで参加しており、そのことは大切だけれど、もっと共通の認識を持つことも必要だ、ということで意見が一致しました。

7月のミロンには間に合いませんが、次回は7月4日(金)、その次は8月を予定しています。どうぞ参加ください。

(報告・二ノ坂 保喜)

ADB総会に参加しました

5月11日から13日まで、福岡市でアジア開発銀行の第30回年次総会が開催されました。数年前からNGOはADBの政策やプロジェクトの問題に対して提言活動を行なうようになり、毎年開かれる総会にはオブザーバーとして参加するようになりました。今年のNGOの参加は17カ国41団体にのぼり、また今回は開催地である福岡のNGOとして「ハングラデシュと手をつなぐ会」も参加することになりました。期間中、ホテル内に設置されたNGOルームを中心に、ADBのスタッフや政府代表者との会合が数多く開かれました。参加したNGOの多くは、ADBの開発プロジェクトに直接関わっている地域や国の人たちです。

「事業決定に地元住民の意見が全く反映されていない」

「環境調査や事前調査が正しく行なわれていない」

「情報の公開がなされていない」

「調査報告を現地の言葉に翻訳すべき」などADBに対する批判が相次ぎました。開発をめぐる考え方の違いは明らかです。けれどもこうした場で、直接ADBや政府に対して、地元住民の意見や環境保護を訴え続けることで、両者の歩み寄りを実現していくのです。

また直接話をした海外のNGOのスタッフたちからは常に同じ事を言われました。それは私達日本人が、もっとADBやODA（政府開発援助）の行なっていることに関心を持ち、日本の政府に対して提言を行なってほしい、ということです。ADBの加盟国中、日本は最大の出資国です。出資額によって理事会での投票率が決まるため、日本は理事会で最大の投票権を持っていることとなります。しかもADBの歴代総裁はずっと大蔵省出身の日本人が務めています。つまり日本政府はADBに対して、非常に大きな影響力を持っているわけです。そしてADBへの出資金は、私達の税金から出ているのです。けれども国民にはADBの事業報告など何の説明もされていません。税金が、知らないうちに環境破壊や人権侵害にも使われているという事実を認識し、国民から政府に対してプレッシャーをかけるべきだと、彼等は強く要望していました。「(手をつなぐ会のような)日本のNGOが長い年月をかけて一つの村や地域を懸命に支援している一方で、日本の政府は一瞬にして何十もの村、何万という人間に被害を与える巨大な開発プロジェクトを援助していることをもっと知ってほしい」これはダッカで活動している現地NGOの代表の方から、私達へのメッセージです。

また東ハングラデシュにあるチッタゴン丘陵の先住民族の男性二人からも話を聞くことができました。彼等先住民の住む地域は、ADBの援助のもと開発が進められ、政府による土地の強制収奪、さらに軍隊の武力制圧で多くの難民が発生しました。しかしそれらは一切報道されることがなく、ハングラデシュ国内でも全く知らされていないのだそうです。

国が経済成長するための開発の陰で、貧困層やマイノリティ、弱い人たちが被害を受けています。今後のADB総会がなかったら、これらのことを私は全く知らなかったでしょう。豊かさの定義は人それぞれですが、経済発展にのみ目を向けてきたADBやODAに対して、現地の人々は環境や人との調和のとれた発展を望んでいます。これから先、両者を結んでいくのはNGOの仕事です。ADB総会が福岡で開かれたことをきっかけに、これからのNGO活動を考えていきたいと思いました。

7月のNGO福岡ネットワーク定例会のおしらせ

NGO福岡ネットワークでは、福岡地区のNGOの人たちが集まって、お互いに学びあい、悩みを相談しあい、よりよいNGO活動を目指しています。バングラデシュと手をつなぐ会の会員の皆様もどうぞご参加ください。

とき 1997年7月12日(土) 午後2時～5時

ところ アクロス福岡3F こくさいひろば 交流室

- テーマ
- ① 農村開発フォーラムについて
 - ② NPO法案について
 - ③ ODA改革協議会についての報告
 - ④ ハビタット福岡NGOフォーラム準備会の提案
 - ⑤ 各団体の夏の活動について報告・お知らせ
 - ⑥ フェアトレードについての提案

「夢見る子供基金」の協力ありがとうございます。

取り外した歯の金属冠は、一つ一つはわずかな量ですが、価値ある金属です。これを集めて何かに役立てられないだろうか—そんな願いから、日本歯科医師会、九州・山口各県歯科医師会などの協力で平成5年に発足した「夢見る子供基金」です。毎年10月を定期回収月間とし、全国の歯科医院から受け取った金属冠を精製して、夢見る子供基金の資金源としています。

毎年1月に全国の子供たちから「かなえたい夢」と題した作文やイラストを募集し、春休みの「子供会議」を開き、夏休みにキャンペーンを実行します。今年4月に開かれた子供会議では、バングラデシュのカラムディ村の学校建設に協力することが提案され、みんなの承認を受けました。

今年のキャンペーンは7月21日と22日二日間に渡って福岡市で開催される予定です。このキャンペーンにカラムディ村の中学校の先生と二人の子供(男と女それぞれ一人ずつ)が参加することになりました。この機会を通して大人だけではなく、日本とバングラデシュの子供たちの中にも心の通じる交流ができることを願っています。

